



どもたちは最初から大満足であった。リンカーン記念館・ホワイトハウス・連邦議会議事堂とアメリカを代表する建物が目の前にあることでカメラのシャッターを押す動きが速くなり、楽しい歓声が上がっていた。ワシントンDCは、例年になく暑い夏になっているようで、高温注意報が出て注意喚起されていた。実際、強い日差しでとても暑かったのだが、湿度が低くからっとしており、楽しみのほうが勝っていたためか、さほど苦しむ生徒はいなかった。ホームステイ先家族の代表者であるシャラさんは、乳飲み子を抱きながらも夫と協力しよく動いてくださった。何度も「水分を取るように…」と配慮いただいた。

目にする景色は、本当によく整備されていて、車窓からも美しい木々や芝生が目飛び込んできた。道路わきの雑草がない。草地を整備する特別な車両が動いており、美しさを保つための努力と費用が投入されていることが理解できた。

いくつかの建造物の近くには、さるすべり(百日紅)が植えられ大木となっており、今を盛りに見事に咲いていた。ピンク、白、赤。日本名の「さるすべり」は、「樹皮がつるつるして、サルが木から滑り落ちるほどという意味があること」をホストファミリーの方に伝えたのだが、伝わったかどうかは定かでない。さるすべりの花言葉は、「雄弁」。歴代大統領の名スピーチを暗に表しているのかもしれない。長い期間にわたって、美しい花を堂々と咲かせているこの木が主役となっているのは、アメリカらしさなのかもしれない。このあとスケールの大きいスミソニアン国立航空宇宙博物館、ため息が出るほど美しいワシントン大聖堂を見学し、初日のツアーが終了した。大聖堂の地下1階、ヘレンケラーとサリバン先生が眠っている近くで練習してきた合唱曲「生きている証」を特別に歌わせていただくこともできた。少しひんやりした大聖堂にア・カペラの歌声が響き素敵な時間を思いがけず体験できた。さぞ気持ちよかったのではないかなと思う。



4. アイデンティティー of U.S.A.



広い空間の中にある6m近い真っ白な16代大統領リンカーンの彫像。側面の壁には有名な演説「人民の人民による人民のための政治」の文面。書いてある箇所を確認し、それをバックにカメラに収めている子も多かった。6日目に見学した第3代大統領ジェファーソン記念館は、漆黒の立像。ワシントンともにアメリカの独立時を支え、独立宣言(1776年)の起草者でもある。生徒たちは、見学を重ねるうちにアメリカが何を一番に大切にしているかが理解できたのではないだろうか。国としての歴史が浅いからこそ、建国からの足跡を価値ある形に残し、自国の歴史と文化に対する誇りと建国の精神を心に深く刻もうとしているようだ。そして、国民の団結を強くすると同時に国外にも示していると感じた。

ワシントンDCで見学した博物館等は、入館料がいらなかった。そして、ほとんどがフラッシュなしの写真撮影ならば許可されていた。貴重な展示物を目の当たりにできただけでなく、記録として記憶に留めることができるのだ。もちろん警備員の数も多く、館内に入るためのセキュリティの厳しさはどこにもあったが、アメリカという国の度量の大きさを肌で感じたのではないだろうか。

そんな中で、写真撮影を許されていない公開展示があった。それは、歴史博物館の大星条旗。1814年の米英戦争で要塞に掲げられていたという。想像以上に大きいものだが、かなり傷んでおり、破れて形をとどめていない部分もある。その大きな星条旗が、保存状態を保つために強化ガラスで囲われ、光を押さえ空調管理ができる大きな場所に厳重に展示されていた。生徒たちも神妙に見入る姿があり、アメリカの原点となる魂(スピリット)を感じたのではないかなと思う。まさしく国の宝なのだろう。縫い上げた女性についての説明や裁縫道具もあり、作った人を大きく讃えているところがこの国らしかった。



▲ホームページより

5. 日米文化交流とJapan Night Party

丸1日の見学を終えた翌日は、我々だけでChinn Libraryという、子どもから高齢者までが利用できる施設へ。実に恵まれた設備であった。サマースクールで研修している子どもたちとの交流。体育館に出されたテーブルで、折り紙・紙風船などの日本の遊びを英語で伝えながら、一緒に遊んだりした。友だちになるのに時間はかからなかった。施設のスタッフである大学生がうまくリードしながら、今度はシャーク&フィッシュというゲーム。捕まってサメの仲間にならないように、向こう側の岸までたどり着くゲームで、体育館をいっぱい使って逃げ回って楽しんだ。盆踊り(東京音頭・八百津踊り)も一緒に踊ることができた。施設内の見学では、プール・スカッシュ場・フィットネス室・ウエイトリフティング室などを見て回り驚きの声。「こ